

第1回 建物を楽しむ

彦根景観フォーラムでは、多賀町一円に残された一圓屋敷が当フォーラムに寄付されたのを受けて、多賀町の皆さんで結成された「多賀クラブ」と一緒に、多賀「里の駅」として、多賀の食・農・歴史・自然を楽しむ様々な試みを実施しています。コンセプトは、「里の恵みを楽しむ」です。

今回は、3月7日(土)に開催された「集い」から、滋賀県立大学 濱崎一志教授の講演と一圓屋敷の建物の楽しみ方をご紹介します。

講演：滋賀県立大学 濱崎一志 教授

一圓屋敷の主屋の竣工と屋根継ぎ

1. 主屋（おもや）の竣工

一圓屋敷には、安政4年巳年(1857)正月に書き起こされた普請帳が残る。職人の手間賃などを書き付けたもので、上棟は「巳年の9月」とあり、躯体の完成は短期間におこなわれたが、その後内部の造作がしばらく続く。末年(1859)2月に座敷長押、6月に納戸釘隠し、12月には「中ノ間上り段引き出し」の手間賃を支払っている。内部の造作は2年にわたって続いている。

普請帳の記述は、子年(1864)7月まで続く。子年7月には納戸山水の画料が支払われ、9月に建前の祝儀がおこなわれている。

この普請帳に出てくる建物と現在の建物が同じである直接的な証左は無いが、式台があること、安政4年の普請や、後述する明治24年の「合掌くずし」の記録は残るものの、これ以降に建て替えの記録がないことから、現存する主屋は安政4年(約150年前)のものと考えられる。



2. 茅葺きから瓦葺きへ

一圓屋敷に残る文書の中に主屋を「瓦葺き」にしたとの記述が残っている。明治24年(1891)のことである。主屋が「茅葺き」であった根拠は前述のように、土間と玄関、玄関と中座敷、および台所と口納戸の部屋境に上屋柱（うわやばしら）が建つことにある。上屋柱の存在は上屋桁（けた）と上屋梁（はり）の上に又首組（さすぐみ）の屋根を組み、茅を葺いていたことを示す。

明治中期頃から昭和40年代くらいまで、「茅葺き」を「瓦葺き」に変更することが各地でおこなわれた。ただ、「茅葺き」を単純に「瓦葺き」に変えたわけではない。「屋根上げ」、「合掌くずし」、「継ぎ屋」などと呼ばれ、上屋の上の又首組をくずし、2階の増築がおこなわれた。

一圓屋敷の場合も茅葺きの屋根をくずし、柱を継ぎ足し、2階を増築している。口納戸の低い天井は、茅葺き屋根であったときの屋根裏の物入れの痕跡である。



上屋柱が残る



自然石の上に柱を立てる石場建て



障子建具の高度な細工を説明する宮大工の鈴木大祐氏

動き出す彦根の歴史まちづくり 彦根市歴史まちづくり計画のあらまし

● 歴史まちづくり法による計画認定

平成21年1月、国土交通省、文化庁、農林水産省は、前年11月に施行された「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（歴史まちづくり法）」に基づき、金沢市、高山市、彦根市、萩市、亀山市の5市が提出した「歴史まちづくり計画」を認定しました。

歴史まちづくり法は、「市町村が国指定文化財を核として、周囲に存在する歴史的建造物などの歴史資産や景観を一体として捉え、保存し活用することを目的とする」もので、この計画認定により、彦根市は歴史的建造物の修理などの中核（コア）事業で1/2の補助、まちづくり計画などのソフト事業は1/3の補助が受けられます。

● 彦根の歴史的風致と重点区域

彦根市の歴史まちづくり計画では、①大名文化の継承、②城下町の伝統（足軽屋敷、七曲がりなど）、③中山道と宿場町（高宮、鳥居本）、④山と信仰（荒神山）の4つを将来にわたって維持し向上を図るべき歴史的風致としています。

さらに、国指定の特別史跡「彦根城跡」を中心に彦根城下町を「重点区域」とし、彦根に息づく旧城下町

の伝統的なたたずまいや人々の活動を後世にまで永く守り育てるため、施設の整備とソフト事業を重点的に推進するとしています。

具体的には、施設整備では、旧池田屋敷長屋門、善利組足軽屋敷辻番所、彦根藩藩校の金亀会館、長曾根口御門跡、旧魚屋町長屋の保存修理と長曾根、船町の外堀遺構の保存を行います。

ソフト事業では、①地区毎の歴史まちづくり計画の策定、②既存都市計画道路の見直し、③歴史的建造物の活用を支援する事業、④自転車による移動を増やす事業などが予定され、まち歩きや自転車によるエコツーリズム推進のための施設整備も計画されています。

● 10年計画で世界遺産を展望する

計画の期間は、平成20年度から平成30年までの10年間です。また、この計画は、世界遺産のゾーン計画とも重なっており、実現すれば世界遺産の登録推進にも大いに寄与すると考えられます。

彦根景観フォーラムでは、歴史まちづくりこそ、彦根の独自の価値を世界の人々に提供できる「年輪をきざむまちづくり」の第1歩であると考え、多くの市民や賛同していただける方々とともに、一步ずつ取り組んでいきたいと考えています。

重点区域における施策・事業概要

長曾根口御門・外堀の復元



一部現存する長曾根口御門および旧外堀について保存活用するために用地買収を行い、発掘調査にもとづく復原整備を行う

旧魚屋町長屋の保存修理事業



旧魚屋町長屋の保存活用に向けて保存修理および周辺環境整備を行う

【彦根の重点区域】



凡例

- 重点区域
- 城下町景観形成地域の建築物書き留めの地域
- 堀内湖景観形成地域
- 彦根城跡特別史跡
- 彦根城風致地区

旧池田屋敷長屋門保存修理事業



歴史的建造物である旧池田長屋門の保存修理および周辺環境整備を行う

善利組足軽屋敷辻番所保存修理事業



善利組足軽屋敷の保存修理および周辺環境整備を行う

金亀会館保存修理事業



彦根藩の藩校弘道館の講堂であった金亀会館の保存修理を行う

（国土交通省 HP より）